



プログラム

卓話

米山記念奨学委員会

石川委員長

- 本来ですと2月に予定していましたが、論文で忙しい時期ということで今日になりました。
- コロナ禍でイベントがなく、奨学生をいろいろなところに連れて行きたいと思っていたのですが残念です。
- 先週は、日立RCで卓話いただきました。
- シンゼンさんを他RCへ連れて行くと、日本語が上手ですし、美人ですので、私も鼻が高いです。
- 今日は卓話宜しく願いいたします。

米山奨学生卓話

シンゼンさん



- 皆さん、こんにちは。茨城大学のシンゼンです。
- 今日の私は民族衣装を着ています。この服は、漢服といいます。4,500年の歴史があります。
- 私の名前は、秦冉(シンゼン)です。冉という字は、日が頂上に昇っていくという意味です。
- 出身地は内モンゴルの包頭市です。中国の北部にあります。ゲルに住んでもいませんし、アーチェリーもしません。普通の都市ですが、奈良市のように鹿がいる町です。近くに砂漠があります。
- 私は食べるのが好きです。羊肉やシュウマイが大好きです。内モンゴル人は、朝ごはんはシュウマイを食べます。
- 次に、日本での生活をお話します。
- 2017年に日本に来ました。日本語学校であいうえおから、1年間学びました。2018年に茨城大学の研究生として学びました。2019年に修士になり、ロータリーとのご縁が始まりました。
- 日本に来て驚いたことは、トイレです。
- ウォシュレットやトイレットペーパーが設置されていること、そして綺麗なことにビックリしました。
- 教育でも驚いたことがあります。小学校で料理の授業があることです。中国では勉強勉強で、体育がな

い学校もあります。恋愛も禁止です。日本人の学生さんが羨ましいです。

- 生活でも驚きがあります。中国では電子マネーがほとんどなので、財布を持っていると笑われます。私のおばあちゃんも電子マネーを使います。シェア自転車もあり、とても便利です。
- 次に私の研究についてです。
- 簡単に言うと、二酸化炭素の測定です。研究室では10年以上続いている研究です。県内7か所で毎日計測しています。
- 自分の実家にも、二酸化炭素濃度測定器を手作りし設置しました。コロナ禍で帰国できないので、友達にデータを送ってもらいました。
- 今年は米山奨学生になって2年目になります。生活も良くなり、素晴らしい経験がたくさんありました。
- 1つめは、たくさんの方に出会い、視野が広がりました。ロータリアンの皆さんは知識や経験が豊富なかたが多いです。アドバイスをいただき感謝しています。
- 2つめは、異文化交流が多くなりました。他の国の友達も作ることが出来ました。米山奨学生研修旅行でも、国籍を気にせず何時間も話すことが出来ました。ロータリーのおかげです。
- 3つめは、自分自身の成長です。人前で話すのが苦手でしたが、ロータリー活動に参加し、卓話などさせていただく機会が増え、だいぶ話せるようになりました。
- 4つめは、奨学金のおかげで、お金の負担が減り、学業や就職活動に集中できるようになりました。
- 過去1年間を振り返ると、奨学生として奨学金の支援をいただいていると共に、1ヶ月に1回以上のロータリー活動に参加させていただいています。
- 日本文化のふれあいや日本人・外国人との交流など、決してお金では買えない貴重な機会だと思います。
- これからも米山奨学生として、生活を楽しんでいきたいです。また、ロータリークラブで新しい出会いと思い出も期待しています。また、感謝の気持ちを持って中国と日本の架け橋になり、国際社会で活躍することを目指して頑張ります。
- ご清聴ありがとうございました。

会長の点鐘をもって閉会。